

# 環境経営レポート

令和5年度版

(第16版：令和5年4月～令和6年3月)



株式会社 千葉環境ビジネス

令和6年4月10日作成



# ■地球を守る 「護美」最前線

株式会社 千葉環境ビジネス 代表取締役 飯島 伸行

人間の暮らすところには必ず廃棄物が発生します。ゴミは人の営みの証しと言えるでしょう。温暖化や大気汚染など地球の環境に大きな変化と破壊が進行する中、廃棄物の問題は、現代社会のもっとも深刻な課題のひとつとなりました。かつて廃棄物処理は3Kと呼ばれた業界ですが、今や時代の最先端業種といっても過言ではありません。

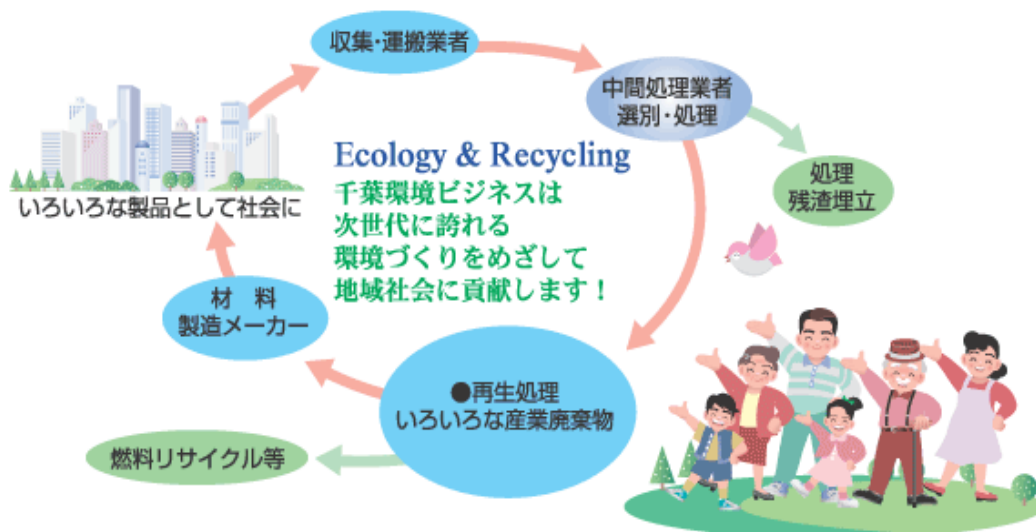
山林への不法投棄や廃油放置などのニュースが流れ、ともすれば「やっかいもの」と思われがちな産業廃棄物ですが、その多くは、分別・破碎・圧縮などの処理により、再利用可能な形に生まれ変わります。

千葉環境ビジネスは創業以来「産業廃棄物」を専門に扱い、適正な処理で地球レベルの環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献してまいりました。

「廃棄物」という言葉には、不要のもの・価値のないものというニュアンスがあります。しかし実はゴミには、価値を創出する無限の可能性が秘められているのです。私どもの仕事は、その可能性を引き出すひとつの重要なステップだと考えています。

昔、ゴミ箱は「護美箱」とも書かれました。これは、ゴミの適正処理で地球の美しい環境を守る千葉環境ビジネスの姿勢には、まさにぴったりの言葉でしょう。

私たちの仕事は最先端の「護美」ですと、今こそ胸を張って申し上げたいと思います。これからも、エコアクション21環境経営システムを活用し、地球と社会に役立つ「護美」の仕事



## 1. 環境経営方針

### 企業理念

千葉環境ビジネスは「護美」の心をモットーに、地球の美しい環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献しています。これからも一層、ゴミの価値を創出し、当社の関係する環境関連法等を遵守し、地球温暖化防止と循環型社会に貢献するために、課題とチャンスをつまみ、以下の環境目標に取り組めます。

### 行動指針

1. 環境関連の法規制、及び当社が同意した業界等の行動規範を順守します。
2. 排出事業者とともに再資源化方法の検討や当社の選別作業の強化により、受入廃棄物のリサイクルを促進します。
3. 省エネ・省電力対策を推進し、CO<sub>2</sub>ガスの排出量を抑制します。
4. 雨水の利用や節水により、水使用量の削減を計ります。
5. 自社からの廃棄物の排出を削減します。
6. 環境経営システムを活用し、優良産廃処理業者認定制度適合の拡大を目指します。
7. 環境方針は、全従業員に周知するとともに、公表します。

平成 19 年 8 月 21 日制定

令和 3 年 4 月 1 日 改定

株式会社 千葉環境ビジネス  
代表取締役 飯島 伸行

## 2. 組織の概要

- ・ 名 称 株式会社千葉環境ビジネス
- ・ 代 表 者 代表取締役 飯島 伸行
- ・ 設立年月日 平成 8 年 4 月 18 日
- ・ 資 本 金 1,000 万円
- ・ 所 在 地 本社：〒267-0067 千葉市緑区あすみが丘東 1 丁目 28 番 15 号  
千葉環境リサイクルプラント：〒265-0051 千葉市若葉区中野町 1691 番地 7、9、11 の一部
- ・ 環境管理責任者 リサイクルプラント所長 壁 明彦
- ・ 担当者連絡先（電話／メール） 壁 明彦  
(Tel : 043-307-0180 / Email : info@chibakankyo.co.jp)
- ・ ホームページ <http://www.chibakankyo.co.jp>

## 3. 事業の規模

年度（4月～3月）	R3 年度	R4 年度	R5 年度
廃棄物処理量（t）	16,275	14,469	15,443
売上高（百万円）	1,210	1,075	(R6.5.31 決算)
従業員	28	25	24
敷地面積（㎡）	6,517	6,517	6,517

## 4. 認証範囲

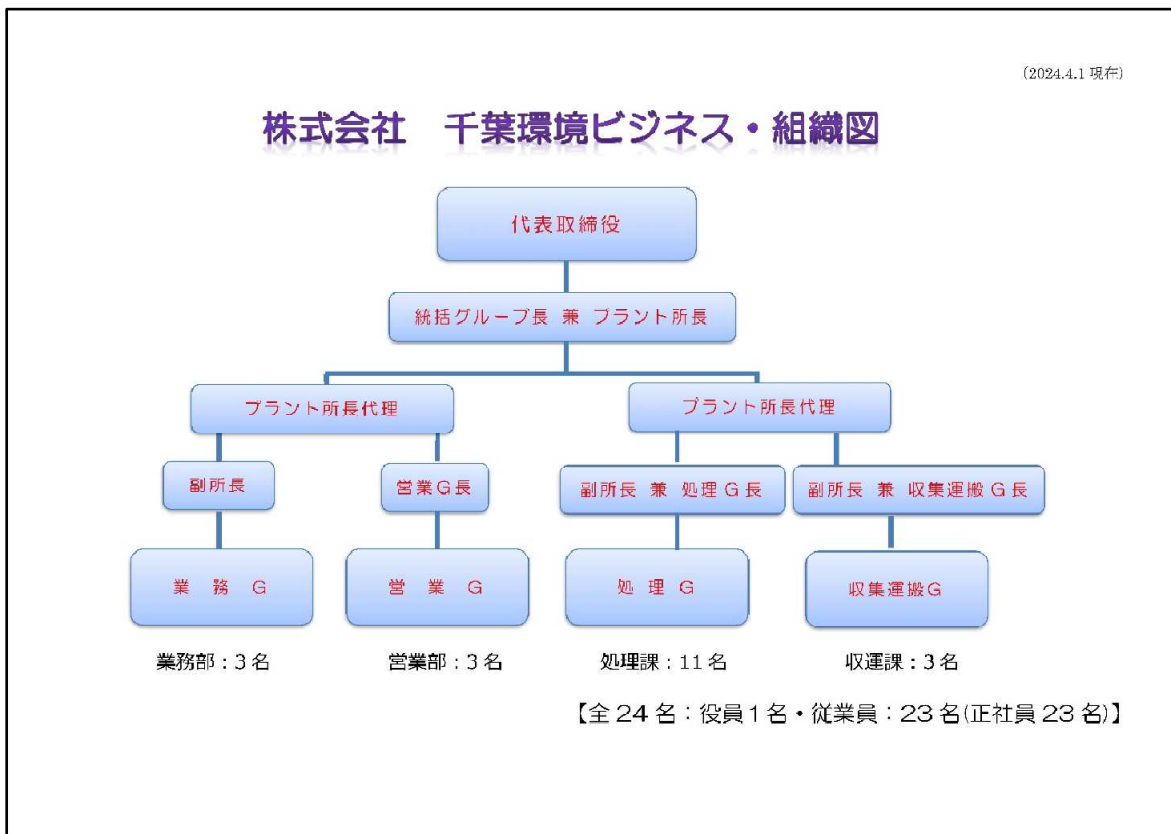
### 4.1 認証事業所

- ・本社：千葉市緑区あすみが丘東1丁目28番15号
- ・中間処理場：千葉環境リサイクルプラント 千葉市若葉区中野町1691番地7

### 4.2 事業内容

- ・産業廃棄物中間処理業
- ・産業廃棄物収集・運搬業
- ・特別管理産業廃棄物収集・運搬業

## 5. 組織図



### <役割・責任>

#### 代表者

- (1) 環境方針の策定
- (2) 環境管理責任者の任命
- (3) 代表者による EA21 活動の見直し
- (4) 必要な経営資源の投入
- (5) 課題とチャンスの明確化

#### 環境管理責任者

- (1) 環境経営システムの確立。
- (2) 実施・維持。社長見直し時に状況報告

#### 環境管理推進者

- (1) 事務局、EA21 活動及び結果の報告

#### 環境会議

- (1) 社内外の周知事項の伝達、報告(環境経営活動の進捗・結果報告)
- (2) 環境経営目標、環境経営計画の協議・発案
- (3) 環境会議の開催、環境経営目標達成状況・環境経営活動の実施状況



② 処分施設に関する資格取得状況

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
・車両系建設機械（整地）	7 名	7 名	8 名
・フォークリフト技能	8 名	8 名	9 名
・危険物乙種第 4 類	1 名	1 名	1 名

[7-2] . 産業廃棄物の処理に係る講習会修了者

①特別管理産業廃棄物収集・運搬課程（更新）

財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター 2022 年 9 月 8 日 第 B05220153065 号・1 名

②特別管理産業廃棄物処分課程（新規）

公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター 2019 年 11 月 21 日 第 219107041 号・1 名

8. 廃棄物処理施設・収集運搬等の状況

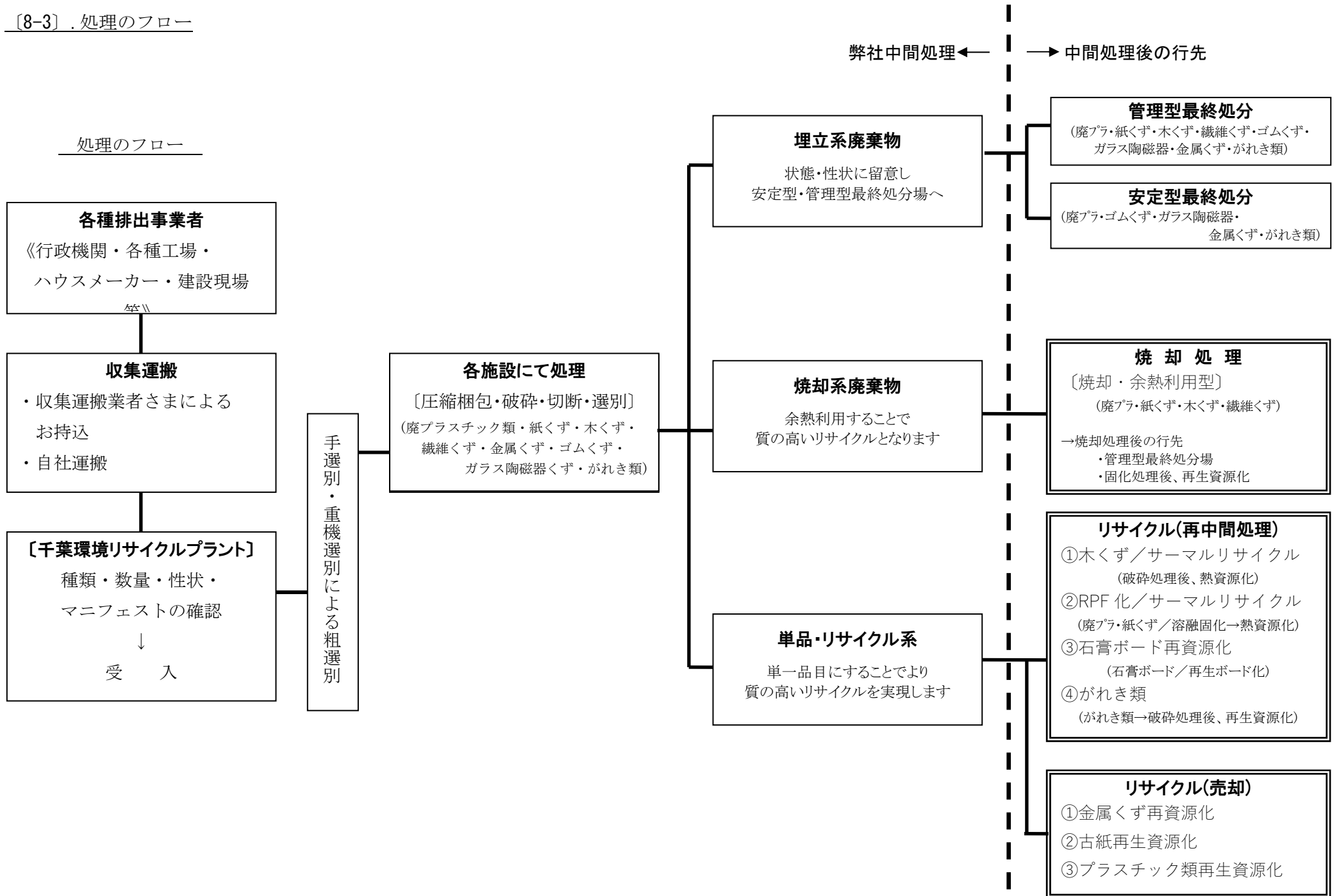
[8-1] . 処分施設

施設の種類(設置年月日)	取扱品目	処理能力	数量
圧縮・梱包施設 (H15. 7/4) (H18. 3/20 繊維, ゴム追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず ガラスコンクリ陶磁器 ゴムくず 金属くず	5. 34t/日 22. 24t/日 69. 92t/日 22. 48t/日 25. 20t/日 3. 58t/日 2. 96t/日	1
切断施設 (H18. 3/20) (H19. 3/12 紙, 金属, ゴム追加)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず 紙くず 金属くず ゴムくず	3. 58t/日 4. 92t/日 3. 58t/日 3. 60t/日 3. 20t/日 3. 58t/日	1
破碎施設 (H19. 3/12) (H24. 2/22 破碎機の変更)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず	3. 58t/日 4. 92t/日 3. 58t/日	1
選別施設①(ふるい機①) (H24. 2/22 ふるい機追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	133. 32t/日	1
選別施設②(ふるい機②) (H19. 3/12 設置) (H20. 8. 20 ふるい機の変更)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	134. 4t/日	1
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691-7、1691-9、1691-11 の一部 (H24. 2/22 施設面積の拡張)			

[8-2] . 保管施設

施設の種類	保管面積	保管容量	保管高さ	保管上限	数量
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	36.83 m <sup>2</sup>	40.19 m <sup>3</sup>	1.40m	40.19 m <sup>3</sup>	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	75.01 m <sup>2</sup>	81.77 m <sup>3</sup>	1.40m	81.77 m <sup>3</sup>	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	47.45 m <sup>2</sup>	72.85 m <sup>3</sup>	2.50m	72.85 m <sup>3</sup>	3
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	69.55 m <sup>2</sup>	106.79 m <sup>3</sup>	2.50m	106.79 m <sup>3</sup>	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	58.83 m <sup>2</sup>	89.14 m <sup>3</sup>	2.42m	89.14 m <sup>3</sup>	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	58.83 m <sup>2</sup>	91.04 m <sup>3</sup>	2.56m	91.04 m <sup>3</sup>	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	72.84 m <sup>2</sup>	105.79 m <sup>3</sup>	2.20m	105.79 m <sup>3</sup>	1
廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	8.97 m <sup>2</sup>	12.0 m <sup>3</sup>	—	12.0 m <sup>3</sup>	12
	施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691-7、1691-9、1691-11 の一部 (H27.8/25 更新許可) (H29.1/13 保管施設の変更) (R2.8/12 更新許可 優良認定)				

[8-3] . 処理のフロー





〔8-4〕 収集運搬許可関係

8-4-1. 産業廃棄物収集運搬登録車両一覧

車両の形式	最大積載量(kg)	保有台数(台)
脱着装置付コンテナ専用車	3,500	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,550	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,550	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,200	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,000	1
キャブオーバ (クレーン付)	2,850	1
キャブオーバ	2,000	1
ダンプ	2,000	1
軽・貨物	350	2

合計車両台数 10台

〔8-5〕 産業廃棄物業実績と主要環境負荷実績

実 績	R3 年度	R4 年度	R5 年度
産廃収集運搬量 (t)	4,571	4,424	3347
上記のうち特別管理産業廃棄物の量 (t)	1.0	1.0	0.1
産廃中間処理量 (t)	16,275	14,469	15442.7
産廃再資源化量 (t)	12,789	11,425	10301.7
電気使用量 (kWh) 全社	32,808	25,782	26,675
軽油使用量 (ℓ)	143,935	154,102	160,144
ガソリン使用量 (ℓ)	6,050	5,421	5,267
二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	406,639	422,578	437,807
水使用量 (m <sup>3</sup> )	65	17	31
自社廃棄物量 (kg)	288	287.9	335.4

〔8-6〕 廃棄物処理料金

・処分料金提示方法

産業廃棄物の処理料金につきましては、種類・性状・量・処理の難度等により変わるため、個別に算出・ご提示させていただきます。

## 9. 環境経営目標と実績

### 〔9-1〕 第6次中期環境経営目標

(中期：R5年度～R7年度・2023年4月20日制定)

項目		単位	R4年実績 (2022)	第6次中期計画			
				R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	
温室効果ガス	電力使用量 (注)	リサイクルプラント	kWh/年	20,554	20,605	20,662	20,715
			kWh/処分量	1.42	1.41	1.40	1.39
		本社	kWh/年	5,228	5,228	5,228	5,228
		全社合計	kWh/年	25,782	25,833	25,890	25,943
	軽油使用量(重機) (リサイクルプラント)		ℓ/年	129,729	130,939	132,088	133,233
			ℓ/処分量	8.97	8.96	8.95	8.94
	軽油使用量 (収集運搬車)		ℓ/年	24,374	24,575	24,774	24,971
			ℓ/運搬量	5.51	5.50	5.49	5.48
	ガソリン(営業車、本社)		ℓ/年	5,421	5,421	5,421	5,421
	都市ガス(本社)		m <sup>3</sup>	49	49	49	49
プロパンガス(リサイクルプラント)		Nm <sup>3</sup>	93	93	93	93	
<b>温室効果ガス排出量(*)</b>		<b>kg-CO<sub>2</sub>/年</b>	<b>422,577</b>	<b>426,292</b>	<b>429,793</b>	<b>433,282</b>	
水資源使用量	本社	m <sup>3</sup>	17	17	17	17	
	リサイクルプラント	定性評価	実施	実施	実施	実施	
一廃の自社排出量		kg/年	288	288	288	288	
産廃の収集運搬量		t/年	4,424	4,468	4,512	4,557	
産廃の中間処理量		t/年	14,469	14,614	14,758	14,903	
産廃の再資源化量		t/年	11,425	11,539	11,654	11,768	
中間処理後の廃棄物量		t/年	757	765	772	780	

注) 電力の二酸化炭素排出量算出は、R4年度は排出係数 0.455kg-CO<sub>2</sub>/kWh(東電、H30年度実排出)を用いています。R5～R7年度は東京電力エナジーパートナー(株)のH30年度調整済排出係数 0.451kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用しています。

#### 【設定の基本的な考え方】

R4年度は社会的な活動がコロナ禍から復帰する見込みが出て来たので収集運搬量、中間処理量、再資源化量については以下のように見直す。但し、急激な回復は期待できないので毎年慎重に計画を見直す。

1. 産廃収集運搬量はR4年度実績から1%増加とする。産廃中間処理量はR4年度実績から1%増加とする。産廃の再資源化量についてもR4年度実績から1%増加とする。
2. 電力使用量は、本社はR4年度実績維持とする。  
リサイクルプラントではR4年度原単位実績を毎年0.01削減とする。
3. 軽油使用量で重機用・収集運搬車両ともR4年度原単位実績を毎年0.01削減とする。  
また、営業車のガソリン使用量はR4年度実績維持とする。
4. 本社の都市ガスと水使用量はR4年度実績維持とする。  
リサイクルプラントのプロパンガスはR4年度実績維持とする。水使用量は実績表での月次実績評価とする。

[9-2] 中期環境経営計画

R5年度～R7年度の主な環境活動は次のとおりです。

区分	項目	環境活動実施内容
二酸化炭素の削減	収集運搬車両及び重機の軽油使用量の削減	① エコドライブ教育
		② アイドリングストップ
		③ 燃費管理データ収集
		④ 定期点検の徹底
		⑤ 低燃費車の導入
	電気使用量の削減	① 節電告知ラベル貼付
		② グリーン製品・機器への切替
		③ エアコン省エネ設定運転
		④ パソコン省エネモード継続
		⑤ ケーブルズ・ウォームアップの展開
廃棄物の削減	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善
		② 分別作業の標準化
		③ 処分方法の見直し
	リサイクルの拡大	① 排出事業者への分別提案
		② PR紙、環境活動レポートの配付
		③ リサイクルネット整備・拡充
水排資水源・	地下水使用量の削減	① 浸透マスの整備
		② 雨水利用（トイレ清掃・緑地散水）
		③ 洗車水、散水の節約
グリーン購入	省エネ基準適合製品の購入	省エネ型エアコンの購入
	再生材料からの製品を優先購入	コピー用再生トナーの使用
	再生紙、未利用繊維への転換	再生紙の優先購入

●環境経営目標とその実績及び達成率（活動期間：R5年4月～R6年3月での実績評価）  
令和5年度は令和4年度の実績から当初計画を改定して取り組みました。

項目			単 位	R5 年度		
				目標値	実績値	達成率 (%)
電力使用量	リサイクルプラント	kWh/年	20,605	20,466	101	
		kWh/処分量	1.41	1.36	104	
	本社	kWh/年	5228	6,209	96	
	全社合計	kWh/年	25,833	26,675	103	
温室効果ガス	軽油使用量(重機) (リサイクルプラント)		ℓ/年	130,939	132,232	99
			ℓ/処分量	8.96	7.06	126
	軽油使用量 (収集運搬車)		ℓ/年	24,575	27,912	88
			ℓ/運搬量	5.50	9.08	60
	ガソリン(営業車、本社)		ℓ/年	5,421	5267	103
	都市ガス(本社)		N m <sup>3</sup>	49	68	57
	LPG ガス(リサイクルプラント)		のm <sup>3</sup>	93	105	73
	<b>温室効果ガス排出量(注-1)</b>			<b>kg-CO2/年</b>	<b>414,784</b>	<b>437,807</b>
水資源使用量 (注-2)	本社	m <sup>3</sup>	65	31	210	
	リサイクルプラント	チェックシート点数	実施	17	100	
一廃の自社排出量			kg/年	288	335.5	86
産廃の収集運搬量			t/年	4,468	3347	133
産廃の中間処理量			t/年	14,614	15443	94
産廃の再資源化量			t/年	11,539	10302	112
中間処理後の廃棄物量			t/年	765	1132	68

注-1) 電力の二酸化炭素排出量算出は東京電力エナジーパートナー(株)の2021年度調整済排出係数0.451kg-CO2/kWhを使用しています。

注-2) 水資源使用量のリサイクルプラントはチェックシート点数で評価しています。

チェックシートは取り組みチェックシートの1)水の効率的利用及び日常的な節水の項目を利用しています。(別紙、参照)

● R5年度の主な環境経営計画の実施結果

区分	項目	環境活動実施内容	評価
二酸化炭素の削減	収集運搬車両及び重機の軽油使用量の削減	① エコドライブ教育	◎
		② アイドリングストップ	◎
		③ 燃費管理データ収集	◎
		④ 定期点検の徹底	○
		⑤ 低燃費車の導入	◎
	電気使用量の削減	① 節電告知ラベル貼付	○
		② グリーン製品・機器への切替	○
		③ エアコン省エネ設定運転	○
		④ パソコン省エネモード継続	○
		⑤ ケルビズ・ウォームビズの展開	△
廃棄物の削減	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善	◎
		② 分別作業の標準化	◎
		③ 処分方法の見直し	○
	リサイクルの拡大	① 排出事業者への分別提案	○
		② PR紙、環境活動レポートの配付	○
		③ リサイクルネット整備・拡充	◎
水排資水源・	地下水使用量の削減	① 浸透マスの整備	○
		② 雨水利用	◎
		③ 洗車水、散水の節約	○
グリーン購入	省エネ基準適合製品の購入	省エネ型エアコンの購入	○
	再生品を優先購入	コピー用再生トナーの使用	○
	再生紙、未利用繊維への転換	再生紙の優先購入	◎

R5年度の環境活動結果は上記のとおりでした。

R6年度は△や○の項目が○や◎になるように全員で取り組みます。

## [9-4] R5年度活動結果の評価・考察

### 1. R5年度の環境活動概況

R5年度は引き続きコロナ禍による経済低迷が尾を引いており、排出事業者さまからの産業廃棄物の排出量が減少し続けました。

その結果、当社の産廃収集運搬量は目標比 73.0%、前年比では 75.7%と減少しました。

又、リサイクルプラントの中間処理量は目標比 106.0%、前年比では 106.6%と増加しました。

再資源化量については目標比 89.0%、前年比では 90.1%と減少しました。

中間処理後の処分量は増加したため達成率 68.0%でした。

### 2. CO<sub>2</sub>ガスの排出抑制活動

#### (1) 電気の使用量

①リサイクルプラントはやや減少し 101%の達成、前年比では 99%とほぼ維持しました。

処理量当たりの原単位は 1.41kWh/t の目標に対して 1.02kWh/t の実績で効率的稼働が出来ました。

②本社は増加したため達成率 84%でした。

#### (2) 軽油使用量

①重機の軽油使用量は目標比 99.0%とほぼ達成、前年比では 101.9%と同等でした。

原単位は目標 8.96ℓ/t に対して 7.06ℓ/t と大幅達成しました。

②収集運搬車輛の軽油使用量は目標比では 88.0%と未達成となりました。

前年比で 114.5%の増加でした。

原単位は 5.50ℓ/t の目標に対して 9.08ℓ/t でした。これは受注量の減少から、特に前半期に再資源化先への運搬に自社車両を使用したためであり、再資源化量には貢献したが軽油使用量としては未達となった。

#### (3) ガソリン使用量

営業車のガソリン使用量は達成率 102.6%、前年比では 97.1%となりました。

エコドライブの徹底が実りました。

### 3. 産業廃棄物の収集運搬、中間処理、再資源化等

(1) 産廃収集運搬量は前年比で 73.0%と減少した。年間通して受注が減少した。

(2) 中間処理量は前年比で 106.0%と増加した。全品目で微増した。

(3) 再資源化量は前年比で 89.0%と減少した。全品目で微減した。

(4) 処理後の廃棄物量は 68%と増加した。最終処分場を追加したためです。

### 4. 産廃業優良認定の維持

(1) 優良産廃処理業者認定制度で優良認定された許可

- ・ 収集運搬業：千葉県、東京都、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、静岡県
- ・ 特管収集運搬業：千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 処分業：千葉市より R2 年 8 月 12 日に優良認定を取得しました。

## 5. 地域環境活動

千葉環境リサイクルプラントでは定期的に敷地周辺の清掃活動を行っています。今後も全員で地域の環境保全に尽力して参ります。



## 6. ちば SDGs パートナーに登録

R4.7.4 に申請し登録されました。登録番号：1196

### 1. 関係する SDGs 目標(ゴール)

	① 貧困		② 飢餓		③ 保健		④ 教育		⑤ ジェンダー
	⑥ 水衛生		⑦ エネルギー		⑧ 成長雇用		⑨ 革新		⑩ 不平等
	⑪ 都市問題		⑫ 消費生産		⑬ 気候変動		⑭ 海洋資源		⑮ 陸上資源
	⑯ 平和		⑰ 実施手段						

### 2. SDGs 達成に向けた経営方針等

SDGs 推進に取り組む他企業や地域の様々な団体、学校等と連携し、持続可能な社会づくりを進めます。

- ・エコアクション 21 環境経営をすすめ、環境に配慮した経営を進めます。
- ・事業者から排出された廃棄物の再資源化に努めます。
- ・取引事業者様へ SDGs を知ってもらえるよう、普及啓発に取り組みます。

### 3. 各ゴールの具体的取り組み

- ⑦エネルギー：EA21 活動で電気、軽油、ガソリン、灯油の削減に目標を定めて取り組みます。
- ⑪都市問題：地域から発生した廃棄物について再資源化に取り組みます。又、適正に処理します。
- ⑫消費・生産：工事で発生した廃棄物は再資源化します。
- ⑬気候変動：気候変動の原因とされる CO2 の発生削減に EA21 活動を通して取り組みます。
- ⑰実施手段：環境法令に関連する業務遂行に当たっては常に法令遵守に努めていますが、最新法令改正や解釈等については関係先と情報を共有し対応します。

**〔9-5〕 次年度の取組内容**

**(1) 環境経営目標**

〔9-1〕の第6次中期計画(R5~R7)に基づいたR5年度の実績値とその実績値からR6年度の当初計画を改訂いたしました。

項目		単位	R5年度 (2023) 目標値	R5年度 (2023) 実績	R6年度 (2024) 改訂目標	R7年度 (2025) 改訂目標	
温室効果ガス	電力使用量 (注)	リサイクルプラント	kWh/年	20,605	20,466	21,055	21,107
			kWh/処分量	1.41	1.36	1.35	1.34
		本社	kWh/年	5,228	6,209	6,209	6,209
		全社合計	kWh/年	25,833	26,675	27,264	27,316
	軽油使用量(重機)		ℓ/年	130,939	132,232	132,088	133,233
			ℓ/処分量	8.96	7.06	8.95	8.94
	軽油使用量(収集運搬車)		ℓ/年	24,575	27,912	28,745	28,721
			ℓ/運搬量	5.50	8.51	8.42	8.33
	ガソリン(営業車、本社)		ℓ/年	5,421	5,267	5,421	5,421
	都市ガス(本社)		m <sup>3</sup>	49	68	60	59
プロパンガス(リサイクルプラント)		N m <sup>3</sup>	93	105	93	93	
<b>温室効果ガス排出量(*)</b>		<b>kg-CO<sub>2</sub>/年</b>	<b>414,784</b>	<b>437,807</b>	<b>440,163</b>	<b>443,076</b>	
水資源使用量	本社	m <sup>3</sup>	17	31	36	35	
	リサイクルプラント	定性評価	実施	(チェックシート) 点数 17	(実績表) 月次実施・評価		
一廃の自社排出量		kg/年	288	335.5	288	288	
産廃の収集運搬量		t/年	4,468	3,347	3,380	3,413	
産廃の中間処理量		t/年	14,614	15,443	15,597	15,752	
産廃の再資源化量		t/年	11,539	10,302	10,817	11,332	

注) 電力の排出係数は東京電力エナジーパートナー(株)R3年度調整済排出係数 0.451kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用しています。

**【設定および改訂目標の基本的な考え方】**

R5年度は コロナ禍から脱却すると思われたが、現実はまだ回復には遠く、厳しい状況が続いている。そこで収集運搬量、中間処理量、再資源化量については以下のように見直す。

但し、急激な回復は期待できないので毎年慎重に計画を見直す。

1. 産廃収集運搬量は R5 年度実績から 1%増加とする。 中間処理量は R5 年度実績から 1%増加とする。再資源化量は R5 年度実績より 5%増加とし、中間処分後の廃棄物量は直近 6ヶ月分の実績維持する。
2. 電力使用量は、本社・リサイクルプラント共に当初目標維持とする。
3. 軽油使用量のうち、場内重機は当初目標値を維持し、収集運搬車両は R5 年度実績より、原単位で 1%ずつ削減することを改訂目標とする。また、営業車のガソリン使用量はそのまま当初目標維持とする。
4. 本社の都市ガスと水使用量は貸店舗分の増加を考慮した、直近 4ヶ月間の実績を維持する。リサイクルプラントのプロパンガスは当初目標維持とする。水使用量は実績表での月次実績評価とする。



## (2) 環境経営計画

環境経営計画は 12 ページの内容を継続します。

### 10. 環境関連法規の遵守状況と訴訟の有無

当社が遵守しなければならない環境官憲法規等は次のとおりです。

- ・廃棄物処理法
- ・消 防 法
- ・自動車NO<sub>x</sub>・PM法
- ・労働安全衛生法
- ・道路運送車両法
- ・道路交通法
- ・振動規制法、騒音規制法
- ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律
- ・使用済自動車の再資源化等に関する法律
- ・特定家庭用機器再商品化法

R6年4月2日に遵法性評価を行った結果、環境関連法規への違反はありませんでした。  
また、関係当局よりの指摘及び訴訟は、過去3年間ありませんでした。

## 11. 代表者による全体評価と見直し・指示

R6年4月10日に社長による全体評価と見直しを実施した。

報告項目	管理責任者からの報告内容	結果	社長からの指示等
環境経営システム構築	管理部門をリサイクルセンターへ移設して約3年経過し、業務は安定し、効率的な運用が出来ている。	○	了承
環境目標	令和5年度はまだコロナ禍の影響があり、取引先の事業活動が低迷しており、特に収集運搬量が大幅に減少した。 電気使用量は本社は目標達成、プラントもほぼ100%維持。 軽油使用量はプラント重機は使用量、原単位とも約100%、しかし収集運搬車両は使用量、原単位とも未達となった。 一方ガソリンは営業活動でのエコドライブが実り大幅達成となった。 CO2排出量はわずかに未達、都市ガス・LPガス使用量は目標達成、水使用量は大幅に達成、自社一般廃棄物排出量は未達成であった。	△	了承
環境関連法規制	環境法令等登録表に基づき、R6年4月2日に遵守状況を評価した。その結果、問題点は無かった。	○	了承
外部から苦情・要望	環境に関わる苦情・要望等は無かった。 また、行政からの指導も無かった。	○	了承
緊急事態の想定及び訓練	令和6年1月30日に処理場にてフォークリフトの荷物乗り上げた件をフレコン回収作業時の油漏れ事故を想定した訓練を実施した。 この訓練結果による手順および緊急連絡ルートの見直しは不要と判断。	○	了承
予防処置及び是正処置の実施状況	・収集運搬量が4月～11月までの8ヶ月間連続して月次目標未達成となり、一方で車両の軽油使用量も増加した。これは受注量の減少から、特に前半期に再資源化先への運搬に自社車両を使用したためであり、再資源化量には貢献したが軽油使用量としては未達となった。 ・一般廃棄物の排出量は4～7月の決算前後期は特に増えるが、後半期には少し回復するものの、まだ多いのでの来年度目標の前面に打ち出し、今期同様の目標値を達成するよう努めたい。	○	了承
社長からの指示	R5年度の改定目標で産廃収集量は改善目標値を、また特に再資源化量は+3%増を目標とし、出来れば+5%を実現出来るように全員で取り組んで貰いたい。 また一般廃棄物の目標も全員で取り組むこと。		

### 変更の必要性の有無

① 環境経営方針	変更なし。
② 環境経営目標	令和5年度以降は第6次中期計画で策定した環境経営目標に基づき取り組むが、一部令和6年度の目標値を修正する必要がある。
③ 環境経営計画	上記②の第6次中期計画で策定した環境経営計画に基づき引続き活動を推進する。
④ 環境経営システム (組織を含む)	変更の必要はなし